

校長室より

「天空高き」



第111号



平成30年8月30日

2学期に向けてー楽しみは待っていても与えられないー

長い夏休みが終わりました。

異常な猛暑の毎日でしたが、不思議なもので9月の声を聞く頃になると、朝夕は随分と過ごしやすくなりました。

皆さんにとって、今年の夏休みはどうか。

3年生の皆さんは、進学や就職に向けて、勉強三昧の毎日だったと思います。また、部活動に毎日汗を流した人もいます。結局はダラダラとした毎日を過ごしてしまった、と悔やんでいる人もいるかもしれません。

大事なことは、一人一人が、もう一度振り返ることです。そして、できなかったこと、やれなかったことを、2学期にどのようにしたら、できるのか、やれるのかを自分で探し出してください。そして、新たにチャレンジしてください。

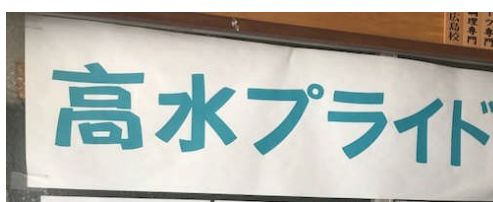
2学期は、運動会や楽学祭、そして修学旅行等、行事がたくさんあります。皆さん全員が参加し楽しんで、成長の場にしてもらいたいと思います。

しかし、楽しみは待っていて与えられるものではありません。皆さんひとり一人が、計画し、積極的に参加すること、そして、自分が嫌なことは絶対に人にしないことで本当に味わえるのです。

皆さんひとり一人の若者らしい澁瀨とした姿勢や態度を、運動会や楽学祭で来校された多くの方々が楽しみにしておられます。「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」。一所懸命仲間と一緒に取組んでください。

もう一つ、お願いがあります。「災難は忘れる前にやってくる」ということです。

昨年は、7月に九州北部での豪雨災害、今年は西日本豪雨災害で、多くの尊い命が失われました。



人間が育つから学力が伸びる。学力が伸びるから人間が育つ。

台風や局地的豪雨などの自然災害や交通事故は、いつでも、誰でもが、どこでも、遭う可能性があります。残念ながら、日本列島で安全な場所は存在しません。ですから、日常から「想像力を働かせて、危険を察知してください」。

自然災害（台風・集中豪雨）に対しては、天気予報や自分が住んでいる地形の確認をしてください。

事故・事件に巻き込まれないためには、安全運転に心がけるとともに、知らない所に近づかない、夜は一人で出ない、また、仮に巻き込まれても、慌てることなく、全力で自分の命を守ってください。

大切なことは、毎日の生活において、当たり前前（あたりまえ）のことを当たり前前（あたりまえ）にすることを、徹底することです。

「読書習慣」のすごい力！—読書習慣と学力の関係—

本校では「朝の読書」を長年続けていますが、良く読書をする子供は、学力も高いという調査結果が出ました。

この調査は、川島先生（東北大教授）が座長を務める仙台市のプロジェクトから、仙台市の小学生5年生から中学3年生を対象に、3年間のデータをもとに出されたものです。

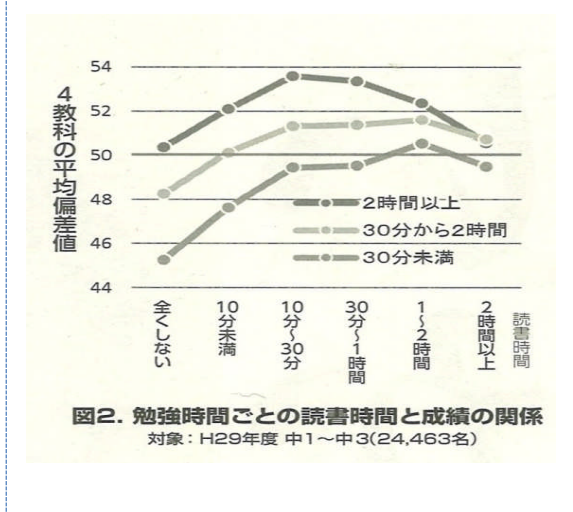
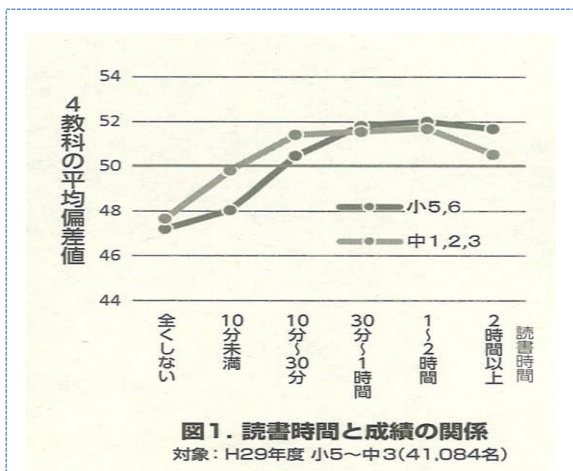
調査結果の中に「読書習慣と学力」についても触れられており、よく読書をする子供は学力が高い関係にあることが、分析結果によって明らかにされています。

具体的には、例えば読書時間が長いほど成績がよく、読書時間と学力にははっきりとした関係があることが分かります。（図1）

また、一日の読書時間が2時間を超えるとやや成績が落ちる傾向にあるようですが、一日に1時間から2時間読書をする子供は、全くしない子供に比べるとかなり高い成績を残しています。

さらに一日の読書時間と勉強時間、偏差値との関係を表したグラフもあります。（図2）

例えば全く読書をしていない子供の場合、一日に2時間以上勉強をして、やっと偏差値50を超えることが分かります。一方、一日の勉強時間が30分から2時間未満であっても、一日に10分以上の読書をすれば、読書をせずに一日2時間以上勉強している子供より偏差値が高くなっていること



も分かります。このことは、学力向上のためには勉強だけではなく、計画的な読書習慣も必要であることを示してくれています。

この調査は、読書習慣が国語の力の土台を築き、学力（成績）にも効用である、という科学的根拠を示してくれましたが、皆さんには、まず読書に親しみ、本を読む楽しさを高校時代までに身に付けてほしいと思います。

8月の月間目標

1%を誰かのために

平成30年度
チャレンジ目標

1. 挨拶 先に明るく元気に
2. 先を見据えた行動 5分前行動を
3. 1%を誰かのために ボランティア活動を
校長室より

「人は一人では生きられない」

「人間は社会的動物である」、これは古代ギリシャの哲学者アリストテレスの言葉だと言われています。

この社会は一人では生きていかれません。お互いに助け助けられながら生きています。

禅僧は一人前の僧侶になるためには、必ず雲水（うんすい）生活を送らなければなりません。その修行中は、「禅堂」と呼ばれる場所が全ての修行の場となるそうです。その禅堂で、一人の修行僧に与えられるのは、畳一畳とわずかな物入れだけだそうです。

このような集団生活においては、自分だけがよいというような我儘は許されず、どのようにすれば皆が気持ちよく生活できるか、ということを実験と考えるようになるそうです。

周囲の修行僧に迷惑を掛けないようにと、他人への「思いやり」「気遣い」というものを常に考えるようになるそうです。

□い頭を○くする—2018 開成中学の国語の入試問題より—

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい

北海商事株式会社は、北海道の名産物を、各地に紹介し、販売する会社です。大手百貨店の安田デパートから、「月末の休日に、新宿支店と池袋支店で北海道物産展を行うので、カニ弁当を仕入れてほしい」と依頼されました。

北海商事では、新宿支店の仕入れ販売を大西社員が担当し、新宿支店よりやや規模の小さい池袋支店の仕入れ販売は小西社員が担当することになりました。

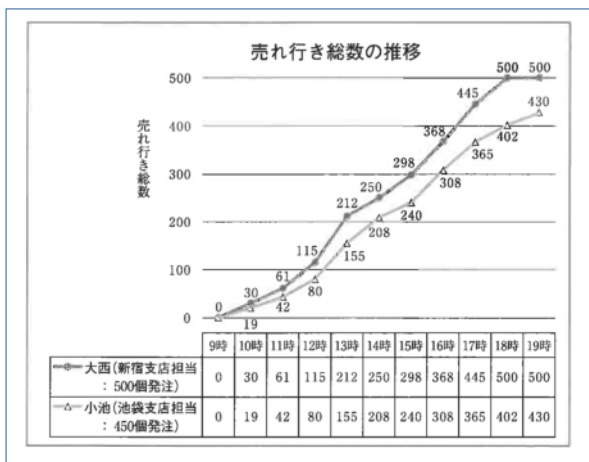
両支店での販売を終え、翌月の月例報告会では、販売部長が下記のグラフを示しながら両支店での成果を社長に報告しました。

「大西社員は、販売用に500個のカニ弁当を発注し、小西社員は、450個のカニ弁当を発注しました。最終的に、新宿支店では、見事にカニ弁当は完売となりました。池袋支店では20個の売れ残りが生じてしまいました。グラフは9時の開店から19時閉店までの、カニ弁当の売れ行き総数を示したものです。二人の社員の評価につい

て、社長はいかがお考えになりますか」

この報告と聞いて、社長は、「部長の報告は客観性に欠ける。君は既に大西社員を高く評価しようとしているのではないかと伝えたくて、「私は小池社員の方を高く評価する」と答えました。

部長が、「新宿支店よりやや小さめの池袋支店でも、小池社員が高い成果を上げたということがポイントでしょうか」と尋ねたところ、社長は、「支店規模の問題ではない」と告げ、自分の考えを示しました。



問一 社長は、部長の報告のどの表現に、客観性に欠けたものを感じたのでしょうか。二つ探し出し、なるべく短い字数で書き抜きなさい

問二 大西社員より小池社員の方を高く評価する社長の考えとは、どのようなものと考えられるでしょうか？

「たしかに」「しかし」「一方」「したがって」の4つの言葉を、この順に、文の先頭に使って、四文で説明しなさい

24節気

立秋 (りっしゅう) 8/8 頃

初めて秋の気立つがゆへなれば也 (暦便覧)

この日から立冬の前日までが秋。一年で一番暑い頃であるが、一番暑いと言うことはあとは涼しくなるばかり。暑中見舞いはこの前日まで、この日以降は残暑見舞い。

処暑 (しょしょ) 8/23 頃

陽気とどまりて、初めて退きやまんとすれば也 (暦便覧)

処暑は暑さが止むと言う意味。萩の花が咲き、朝夕は心地よい涼風が吹く頃だが、台風のシーズンでもある。

出典「こよみのページ」

(解答)

問一 見事に、しまい

問二 [たしかに] 売れた個数は大西社員の方が多く、その全てを売り切っている。

[しかし] 新宿支店は18時で品切れとなり、閉店までの1時間、お客さんは弁当を買えなかった。[一方] 池袋支店では弁当を買おうとした全てのお客さんに買ってもらうことができた。[したがって] お客さんに満足してもらうことが出来た小池社員の方が優れていると言える。

ポイント1 「なるべく短く」だから、余計な要素を入れない

ポイント2 営業はまずお客さん目線で